

私のこころの物語 3

と てん し
飛べない天使
ハナちゃん

作 すみ ゆかこ
絵 R・りんどう





やま 病いとたたかう 親友 小山マリ子さんに 捧げる
—— のりこ 則子リーダー エンジェルありがとう ——

私のこころの物語 3

と 飛べない天使・八ナちゃん

作 すみ ゆかこ
絵 R・りんどう





あおば わかば はやし みち
青葉、若葉の林の道をゆくと、キラキラッ、キラキラッと木洩れ日が光ります。

「ママ、^{みどり}緑のトンネルだね。ライトも^{ひか}光るね。」 マリは^{ひさ}久しぶりのママとのドライブにうれしくて、^{ひか}ここがおどります。



やま しんりょうじょ にゅういん いちねん
山の診療所に入院して一年、

あし うご
足の動かないマリにとって、ママとのドライブがいちばんの^{たの}楽しみです。

うしろの座席にはママの手作りのサンドイッチ、プリン、猫の形のクッキーが置いてあります。

「ママね、新しくニイナちゃんって、お友だちが来たよ。」

「来たよって、どういうこと？」

「戦争やっている国から来た子なの。お父さん死んだって……。」

「お母さんが日本人だから、やっと、やっとの思いで帰って来たんだって。」

「ニイナちゃん足にけがしてるのよ。」

「私も足が動かないのよ、って言ってアクシュしてお友だちになったの。」



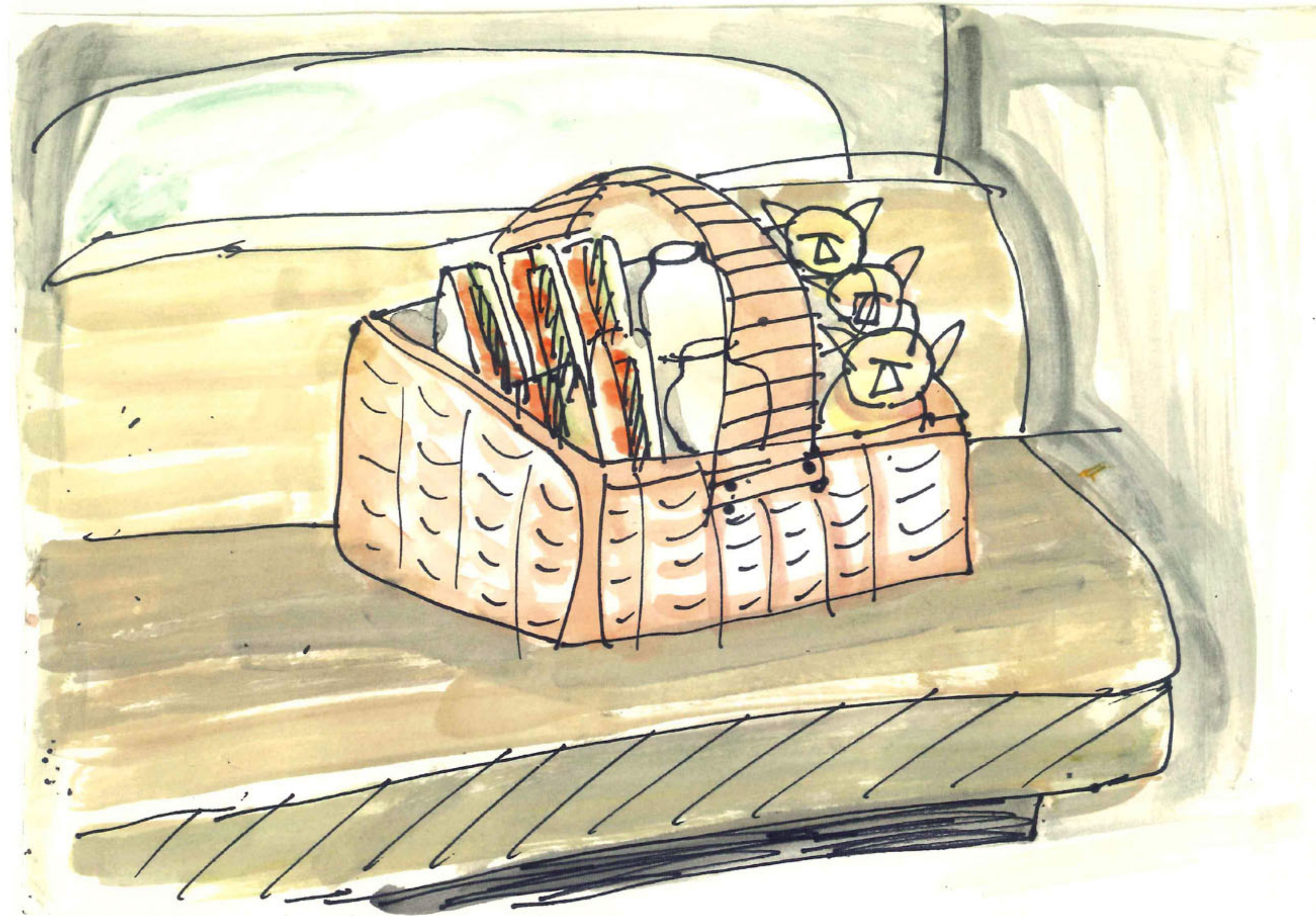
「そうなの。マリはやさしくしてあげなさいね。」

「うん、親友になるよ。」

「山の上でランチして、マリは幸せいっぱい。」

「猫のクッキーを一枚ナプキンに包み、ポケットに入れました。」

——ニイナちゃんにあげよう。——





マリはニコニコして病室に帰りました。

するとナースが

「マリちゃん！ プレゼント届いているよ。」と小さな箱を持ってきました。

「だあれ？ だれから！」

贈り物はマリにとって、楽しい、うれしい、こころはずむものです。

「あっ！ のり子リーダーからだ。」

ガールスカウトのリーダーからの贈り物でした。

「ママ、ママ、早く開けて！」

「ハイ、ハイ。」

ママがリボンをほどき、青い水玉の箱を開けました。

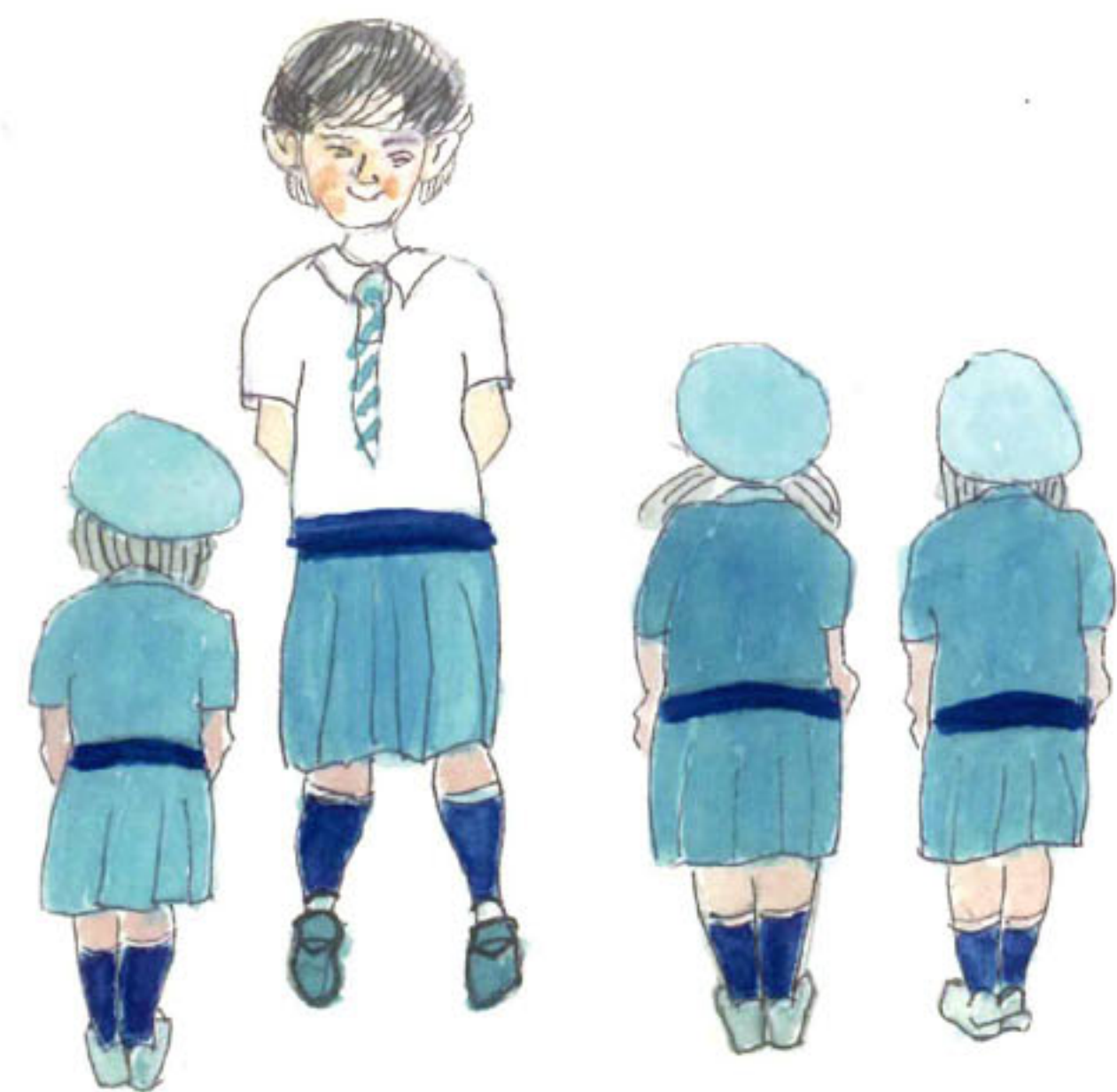


「あ！ 天使だ、エンジェルだよ！」

それはのり子リーダーの手作りの、少し太っちょの天使、

ピンクのうすい紙に包まれていました。

手芸の上手なリーダーが作ってくださったのです。



「かわいい天使が私のところに来たよ。」

のり子リーダーからのメッセージが添えてありました。



——マリちゃん 元気かしら？

エンジェル少し太り過ぎで飛べないのよ。

飛べない天使です。羽根はしっかりあるのにね。

この子のお母さんは

『飛べなくても、ふっくらでかわいくていいじゃない。』

って言うのよ。

でも、飛べない天使じゃ、だれのところへも行けないもの。

だから、マリちゃん、お友だちになってあげてね。

「私の名前はハナです！ よろしく。」

マリちゃん がんばろうね——



のり子リーダーがこころをこめて作った、少し太めの天使ハナです。

「かわいいね ママ。ハナちゃんって言うんだね。」

マリはベッドの上で天使にほほずりをしました。

「ニイナちゃんにもみせてあげるね。」

天使は私たちに幸せをプレゼントしてくれるよ。

きっとだよ。」

ママはそんなようすを見て、涙ぐんでいました。



「そうだ！」

みんなにハッピーが届くように、天使を見せてあげよう。

学校の千明先生、虎井先生、ひかり組の友だち、ふー子ちゃん、マイちゃん、マリンちゃんにも、

みんなに幸せがくるように見せてあげるよ！ ママ。

ハナちゃん、ハッピーお願いね。」

マリはうきうきで、ハナちゃんを抱きしめています。

「そうね、みんなに幸せ来るようたのもうね。」

「ママア、なんで涙声なの？」

「ママだってうれしいのよ。」

ハナちゃん来たのがうれしいの。

ハッピーエンジェルだもの。」





「トン! トン! トン!」

さんかい
三回のノック。

「あっ! ニイナちゃんだ。」

みつ
三つのトン! がふたりあいず
二人の合図です。



「ニイナちゃん、
エンジェルが来たのよ」

マリはニイナちゃんに
ふと
太っちょのエンジェルを見せました。

ニイナちゃんは目をまあるくして

「かわいいね、かわいいね、抱かせて!」

と、すこ
少しゆっくりにほんごい
日本語で言いました。


ニイナちゃんは戦争の国から、こわいこわい思いを何度もして、
やっと平和な日本にたどりつきました。
いま、ここから幸せを感じていました。

「でも、ときどき、夜中に戦争のこわい夢をみて、目がさめるの。」
ニイナちゃんと言います。
戦争はニイナちゃんの片足をうばいました。



そして山の診療所に来ているのです。





わたし せんそうだい
「私、戦争大きらいっ！」

ニイナちゃんはゆっくりの日本語でさけぶように言いました。

「『もうだいじょうぶよ。足をなおして、日本の学校に行こうね。』って

マミーは言うけど、私、足ひとつしかないのよ。」

ニイナちゃんは悲しい顔で言います。



マリはニイナちゃんにいつも言います。

わたし ある あし ある
「私だって歩けない、足があるのに歩けないの。がんばろうね。」

ふと はね と
太っちょエンジェルも羽根があるのに飛べません。

「ダイエットすれば飛べるかしら？」

ハナちゃんもきっとそう思っているのにちがいません。

「日本に来てよかった。戦争ないもの。」 ニイナちゃんはニコッと笑いました。

「うん、私たち幸せになるうね！」 マリは言います。

ママは緑の風が入ってくる窓辺で、明るく笑う二人に、
幸せと成長を願っていました。

窓から見える山々、なんて緑が美しいのでしょうか。

青い湖、白い山桜、明るい春の陽ざしの中で、

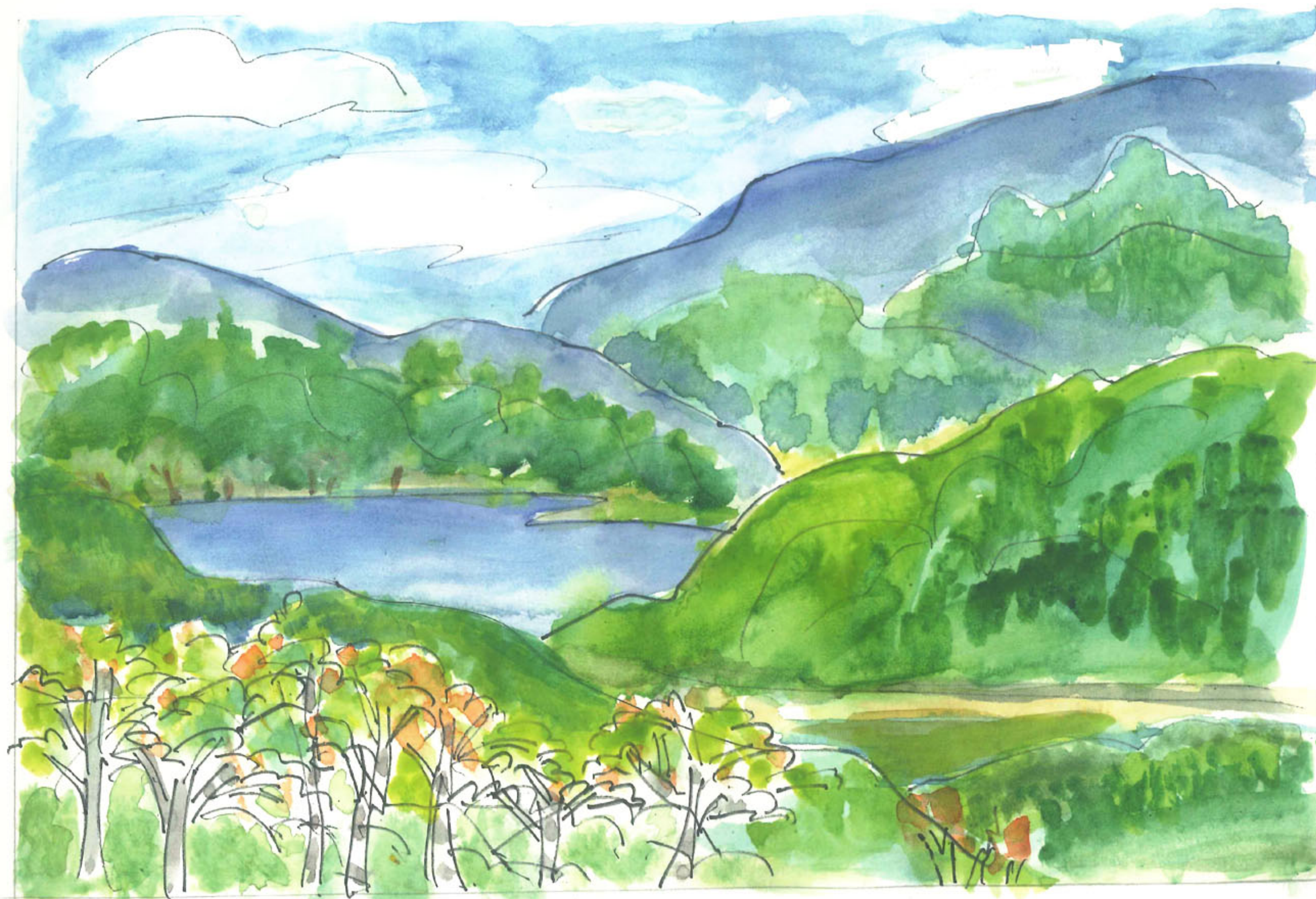
みんなそれぞれ、まぶしいくらいです。

静かな、平和な山あいです。

でも、これから先どうなるのかしら。

ママは悲しい現実を思うと不安です。

——どうぞ、二人に幸せなときが永く続きますように。——





——これからきっと医学も進歩して
マリのむずかしい病気も治る方法が見つかるわ。
ニイナちゃんにも良い義足ができるわ。
日本の技術だもの。それをぜったい信じるわ。



ハナちゃん、あなたのハッピーを病院のみんなにもわけてあげてね！
ぎつとぎつとお願いね。ハナちゃん、守ってくださいね。——
ママは天使に思いを託しました。

やまい
病とたたかう あなたへ

あなた方を思いながら
小さい明るいマリちゃんを書きました。

だれのところに、エンジェル・ハナちゃんはあるのかしら？

ハナちゃんはハッピーをはこびます。
きっと きっとよ——頑張^{がんば}ってね。

こころ折れることなく、
負け^まないでたたかってゆきましょう。

わたし^{わたし}もこの原稿^{げんこう}を病室^{びょうしつ}のサイドテーブル^かで書きました。
決して負け^まけません。

いまも車いす^{くるま}ですけど——春^{はる}の光^{ひかり}を待^まっています。

川崎^{かわさき}から私の思い^{わたし おも}を、エール^{おく}を送ります。

すみ ゆかこ





私のこころの物語 3
と ^{てんし}
飛べない天使・ハナちゃん

■ 作：すみ ゆかこ

■ 絵：R・りんどう

■ 2016年12月23日 発行

- 編集・制作・出版：那須 由莉（らびす舎）
〒389-0115 長野県北佐久郡軽井沢町追分1092
信濃追分駅舎内 編集室
Mail：lapiz@ia5.itkeeper.ne.jp
- アートディレクション・デザイン：柳谷 廣之

定価：1,000円（税込み）